

- 4 単元の指導・評価計画 単元の配当時間：3時間
- ※「指導上の留意点」における①②③：3つの授業改善のポイントに係る手だて
- ①「教えること」と「学ばせること」を区別した手だて
- ②学習過程の所で「考えを書くこと」を大切にされた手だて
- ③学習したこと「まとめ」と「ふり返り」を徹底した手だて
- ：家庭学習の課題を生かした手だて
- ※「評価規準（評価方法）」における観点
- 関：社会的事象への関心・意欲・態度 思：社会的な思考・判断
- 資：資料活用の技能・表現 知：社会的事象についての知識・理解

| 次 | 時 | 学習活動・内容 | 指導上の留意点 | 評価規準（評価方法） |
|---|---|---|--|---|
| 1 | 1 | <p>○古墳の出現について、その背景を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古墳の巨大化 ・豪族の存在 ・前方後円墳の出現 <p>○古墳からの出土する鉄製品の使いみちを考える。</p> <p>○朝鮮半島の国々と倭の関係を理解する。</p> | <p>①前方後円墳の写真を提示し、どのような技術や目的で建造されたかを考えさせる。</p> <p>①古墳は渡来人の技術で築かれ、被葬者（豪族）の富と権力の大きさの象徴であることに気付かせる。</p> <p>①鉄が農具や武器として使用され、朝鮮半島からもたらされたことを理解させる。</p> <p>①朝鮮半島とつながりのあるヤマト王権の力が強くなったことを理解させる。</p> <p>③自己評価カードに本時の授業の振り返りを記入させる。</p> <p>●αノートにワークの問題をするように指示する。</p> | <p>関 巨大古墳の出現に関心をもち、その背景を積極的に調べようとする。</p> <p>(様相チェック)</p> <p>知 古墳の技術は渡来人が伝え、被葬者は豪族であることを理解している。</p> <p>(発言チェック)</p> <p>表 資料から古墳が日本のどこに集中しているかを説明できる。</p> <p>(発言チェック)</p> <p>思 古墳時代に介在した鉄の役割について考えることができる。</p> <p>(発言チェック)</p> <p>知 朝鮮半島とつながりがヤマト王権の権力維持に重要だったことを理解できる。</p> <p>(プリント分析)</p> |
| 2 | 1 | <p>○聖徳太子の政治について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冠位十二階の制度 ・十七条の憲法 ・遣隋使（小野妹子） ・仏教の導入（法隆寺） <p>○大化の改新について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蘇我氏の強大化 ・中央集権国家の確立 ・中大兄王子・中臣鎌足 | <p>●家庭学習で聖徳太子について調べたことを確認する。</p> <p>①豪族間の争いの中で聖徳太子を知る。</p> <p>②聖徳太子の政治改革のねらいを、東アジア情勢と関連付けて理解させる。</p> <p>①中央集権国家を実現するためには強大化した蘇我氏を排除しなければならぬことを理解させる。</p> <p>③日本において、蘇我氏の存在が中央集権国家の成立を阻んでいたことに気付かせる。</p> <p>③自己評価カードに本時の授業の振り返りを記入させる。</p> <p>●αノートにワークの問題をするように指示する。</p> | <p>思 聖徳太子の政治や改革、新政治のねらいを、当時の国内や東アジアの情勢をふまえて考えることができる。</p> <p>(発言チェック)</p> <p>知 大化の改新によって、天皇（大王）中心の中央集権国家をめざしたことがわかる。</p> <p>(様相チェック)</p> |
| 3 | 1 | <p>○東アジア諸国の関係の変化を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・唐の成立 ・白村江の戦い ・山城、水城の建築 | <p>①大化の改新後の東アジアの情勢の変化と日本の動きを理解させる。</p> <p>①日本は中国と対立して争ったが敗退し、国内整備に取りかかったことを確認させる。</p> <p>③百済の知識や技術により、山城や水城が築かれたことを確認させる。</p> <p>③自己評価カードに本時の授業の振り返りを記入させる。</p> | <p>関 唐について興味をもって調べることができる。</p> <p>(様相チェック)</p> <p>思 大化の改新後の日本のようすについて、考えることができる。</p> <p>(発言チェック)</p> <p>表 東アジアの各地域間、その関係を説明することができる。</p> <p>(発言チェック)</p> <p>知 唐・新羅の来襲に備え、山城や水城を築いたことを理解している。</p> <p>(プリント分析)</p> |

5 本時 平成22年9月 日（曜日）第 校時 計画 3時間中の2
第1学年教室にて

(1) 本時の主眼

○聖徳太子の政治や大化の改新政治のねらいを，当時の国内や東アジアの情勢をふまえて考えることができる。
(社会的な思考・判断)

(2) 本時の指導観

前時までに生徒は，大陸から海を渡って日本に集団で移住した渡来人によって多くの技術がもたらされ，ヤマト王権は朝鮮半島の国々との間に密接な関係があることを学習している。

本時は，聖徳太子が推古天皇の摂政として登場し，天皇（大王）中心の政治，いわゆる中央集権の実現をめざしていくようすを学習する。豪族の対立や東アジア情勢の変化などのさまざまな困難な状況の中で，どのようにして理想の政治を実現していたかを資料等をもとに考えさせたい。

また，聖徳太子の死後，中大兄皇子や中臣鎌足らによって行われた大化の改新によって本格的な中央集権が確立していったことを資料を使用して生徒の理解を図りたい。最後に，本時のまとめを行い，自己評価を行わせることにより今日学習した内容を確実に整理させるとともに，復習としてワークの問題練習をαノートにさせることで，さらなる知識・理解の着実な定着を図りたい。

(3) 準備

教師・・・教科書，自己評価カード，歴史人物写真，資料プリント，歴史漫画
生徒・・・教科書，ノート，ワーク，学習プリント

6 過程

| 学習活動・内容 | 指導上の留意点 | 評価規準（評価方法） | 形態 | 配時 |
|--|--|--|---------|---------|
| 1 前時までの復習を行う。 ・日本と朝鮮半島の関係の確認 2 本時のめあてを確認する。 | ③ 日本（倭）と朝鮮半島の関係を確認する。 ● 聖徳太子の写真をもとに導入を行う。 | | 全体 | 7 |
| めあて：なぜ聖徳太子の政治や大化の改新は天皇中心の政治をめざしたのだろうか。 | | | | |
| 3 聖徳太子の政治についてまとめる。 ・冠位十二階 ・十七条憲法 ・遣隋使（小野妹子） ・仏教の導入 | ① ② 聖徳太子の政治について知っていることを出し合う。 ① 蘇我氏と物部氏の対立の中で聖徳太子は政治を行ったことを理解させる。 ② なぜ遣隋使が必要であったかを考えさせる。 ② 聖徳太子が理想とした政治とはどのようなものかを考えを書かせる。（中央集権） | 思：聖徳太子の政治や改新政治のねらいを，当時の国内や東アジアの情勢をふまえて考えることができる。（発言チェック） | 全体 班 | 5 10 |
| 4 資料を読み，遣隋使を派遣した背景を考える。 5 資料から聖徳太子がめざした政治について考える。 | ② なぜ遣隋使が必要であったかを考えさせる。 ② 聖徳太子が理想とした政治とはどのようなものかを考えを書かせる。（中央集権） | | 全体 | 10 |
| 6 大化の改新について理解する。 （中大兄皇子・中臣鎌足） ・蘇我氏の強大化 ・中央集権国家の確立 | ① なぜ蘇我氏を排除しなければならないのかを考えさせる。 | 知：大化の改新によって，天皇（大王）中心の中央集権国家をめざしたことがわかる。（様相チェック） | 全体 | 13 |
| 7 本時のまとめをし，自己評価をする。 | ● 家庭学習プリントを配布する。 ③ 自己評価カードに授業の振り返りを記入させる。 | | 全体 | 5 |

